

みかどづか こうしんぼうづか
帝塚と庚申坊塚

(石浜)

いしはま ぞうふくじ ひがし みかどづか よ
石浜の増福寺の東に、「帝塚」と呼ばれる
ごりんとう ちい ほんち
五輪塔があり、そばに小さな祠がまつつてあり



▲ みかど づか 帝 塚

ち たはんとう どうがん なんぼく つう ふる
ます。ここは、知多半島の東岸を南北に通じる古
どうろ
い道路のあったところで、むかし、ある身分の高
みぶん たか
かた とお ととき きゆう びようき
い方が、ここを通りかかられた時、急な病気で
なくなられ、この地にはおむったところだと伝
つた
えられています。それは、南朝の皇族の方だと
なんちよう こうぞく かた
も言われています。

ち たかだい
この地は高台になっていて、むかしは、その
した うみ はい こ
すぐ下まで海が入り込んでいたので、行き来の
いきき
ふね みかどづか なが
船から、よく帝塚が眺められました。

みかどづかした
「おおい、帝塚下にさしかかったぞう。」

ほ お
「そうれ、帆を下ろせやあい。」



船頭の声が海の上に響きます。すると、そのまま

でに風をはらんで張りつめていた帆が一度にし
わになり、きりきりと滑車をきしませて下ろさ
れます。そして、船乗りたちは、それぞれに手を
合わせ、帝塚に向かって、航海の安全を祈るの
でした。

むかしは、帝塚下を上り下りする船は、みんな
なこうして帆を下ろして帝塚に敬意を表して
通り過ぎたものだそうです。

この帝塚より増福寺を越えた西方百五十メ
ートルほどの畑の中にも、五輪塔がいくつか並
んで建っています。これも、むかし、身分の高い



▲ こう しん ぼう づか
庚 申 坊 塚

方^{かた}がこの地^ちでなくなられた墓^{はか}だといわれ、
「庚申坊塚^{こうしんぼうづか}」と呼ば^よれています。